

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計動向 関連  (九州)		乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・3か月前に比べ、販売台数は僅かではあるが増加している。
		観光名所（従業員）	来客数の動き	・猛暑の影響もあり、待ち時間に耐えられずキャンセルする客が多かったにもかかわらず、お盆の時期も営業したことにより繁盛している。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・猛暑と台風接近により催事日程を延長したが、平日の来店客数が減少した。一方で、土日祝日の来店客数は、お中元ギフトセンターの開設や全店特別招待の実施、夏休みファミリーイベント及びギフト解体等の人気催事の開催により、ファミリーでの来店や目的物購入の来店がみられたため、大きく伸びた。売上伸長率、購買単価も好調に推移している。
		百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・今月の見通しは前年とほぼ同じであるが、一部店舗では新しいスタイルへ店舗改装した結果、売上が前年比120%と大きく伸びた。全店では食品催事の実施による状況改善効果が大きく、この催事を行わない場合94%となっていた。来店客数も5月と比較するとかなり増加した。
		百貨店（プロモーション担当）	販売量の動き	・豪雨の影響も落ち着き、今夏は猛暑を受けて夏物衣料やUVケア用品等が好調に推移した。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・前月同様、夏の猛暑が家電販売に影響を与えた。工事日数が縮められず、若干の頭打ちがあったが、若干良い流れになっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・来館客数、売上共に上昇傾向にある。シネマコンプレックスやサービス業種が好調である一方、主力である物販テナント、特に地方企業など規模の小さいテナントの苦戦が顕著で、明暗が分かれている。
		その他小売の動向を把握できる者〔土産卸売〕（従業員）	販売量の動き	・夏休み、お盆休み等があったため、空港の搭乗客が増え、前年より売上が増加した。明治維新150年、大河ドラマ効果が顕著に出てきている。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・大河ドラマの影響で、国内外の観光客、特に中国、韓国、香港、台湾からの観光客が増加している。
		都市型ホテル（副支配人）	単価の動き	・客からは単価より客室確保を優先に予約があり、そのため他の市内のホテルも含め客室単価が上がっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	単価の動き	・酷暑によるサービスキャンセルはあったが、同業他社と同様、第1四半期は前年度比で大きな落ち込みはない。
		住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・断熱性、省エネ仕様の比率が高くなっている影響で、請負金額が上がっている。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	それ以外	・販売量は落ちているものの、高単価の商品が想定以上に売れている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・売上の前年比が来店客数の前年比を下回っている。猛暑により日傘等好調アイテムも一部あるが、お中元関係の売上は厳しく、衣料品等は伸びていない。
		百貨店（業務担当）	お客様の様子	・猛暑、台風等の影響もあり、客の購買意欲がない。新商品の案内をしても来店率が伸びず、客が必要とするモノを判断しづらい状況にある。
		百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・高額品は相変わらず好調で、その影響で単価は上がっている。一方で中間層の動きは鈍く、客数が増えない。訪日外国人による売上好調が続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・3か月前と比較すると売上は変わっていないが、客数は落ちている。青果、精肉、生魚等生鮮食品の相場上昇により売上が厳しくなっており、特に青果は10%落ち込んでいる。価格は上がっているが厳しい状況が続いている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・猛暑の影響で朝夕に来客はあるが、全体での来客数は大きく落ち込んでおり、売上は伸びず苦戦している。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・長引く猛暑により、客は午前中の比較的涼しい時間に来店している。購入金額や購入点数に大きな変動はない。	

スーパー（統括者）	来客数の動き	・異常気象の影響による葉物野菜の高騰、また小麦粉の価格上昇により、小売価格が値上がりした。その影響で来店する客は、値引きチラシを見るなど、一層商品価格に敏感となっている。それに伴い来店客の多寡の幅が大きくなり、財布のひもが緩む気配はみられない。
コンビニ（店長）	販売量の動き	・猛暑で売上が伸びている。
コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・目的以外の客が多い。レジの周りにプラス1品の単価の安い商品を置いているが、それを手に取る客は少ない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・酷暑が続き来店がほとんどない。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・猛暑にもかかわらず、主力商品のエアコンディショナーが前年割れとなり、他商品にも悪影響が波及している。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・主要商品の単価が下降傾向である。付加価値の高い商品販売の伸びに一服感が出ている。夏物家電、特にエアコンディショナーが伸び悩んでいる。
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新型車の投入がないことが影響して新車販売台数が伸びない。既存車種で自動ブレーキ等の安全装備装着車を客へ訴求し販売台数を伸ばしていく。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・今月は都市部でのキャンペーンが良くなかった。同業者同士の会話でも明るい話題がなく、今まで営業に来ていない業者も加わり、商品の動きが良くない兆しがある。
その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	お客様の様子	・7～8月は、繁忙期に入る。お中元シーズンでもあり、進物等の購入をする客が増えるが、例年の8月を比較すると暑さが影響して若干足が遠のいている。来店客数は減少したが、売上は前年と変わらない状況である。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（統括）	販売量の動き	・燃料油の小売価格は高止まりの状況にある。客の燃料油購入状況を見ると、満タン購入の客及び定量・定額購入の客の割合は変化がなく、販売数量は前年並みである。
観光ホテル（総務）	販売量の動き	・熊本地震からの復興需要の力強さが薄れてきている。
観光型ホテル（専務）	お客様の様子	・今年は暑さのため旅行を控えている状態である。秋の予約状況は平年並みに動いている。
都市型ホテル（販売担当）	販売量の動き	・8月の閑散期を迎え前年並みの売上ではあるが、2～3年前よりは減少している。宿泊は訪日外国人、夏休み等の影響で前年を大きく上回っている。
都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・レストランの予約状況も好調で、単価も安定している。
タクシー運転手	来客数の動き	・極端な暑さが続いた8月だが、夏休みのため催物や観光客が減少することもなく、逆にタクシー利用者は増えている。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・生活環境に動きがない時期で、代理店の販売件数も例年鈍化する。年末までは同様のペースで進む。
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・季節的には販売低迷期ではあるが、今月の売上は悪くはない。
ゴルフ場（従業員）	お客様の様子	・販売方法や接客方法を変えたところ、僅かながら客単価上昇の傾向はあるが、この上昇が引き続き継続的に上昇していくかどうかは不透明である。
美容室（経営者）	来客数の動き	・今年の猛暑は、気象条件が悪く外出を避けている客が多く、8月は売上を期待していたが、悪かった。
美容室（経営者）	販売量の動き	・酷暑もあり、美容業界は夏枯れの状態が続き客の動きも少なくなっている。秋になると涼しくなり、ファッションシーズンになるので回復する。
美容室（店長）	来客数の動き	・お盆前は、異常な暑さで客足は悪かったが、お盆が過ぎて、来客数が増加した。今月の売上を平均するとほとんど変化がない。
設計事務所（所長）	単価の動き	・材料単価や人件費は上昇しているが、仕事の対価は上がらない。節約はしているが限度がある。
設計事務所（代表）	お客様の様子	・問合せが若干増えている。
住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・仲介業務で土地を紹介すると1年前より物件に対する客の反応は良い。現在、土地の価格が上昇しつつあるが、以前と比較すると金額もまだ低く土地取得に動いている。

	商店街（代表者）	販売量の動き	・今年の猛暑により消費者の外出が少なくなり、売上が落ちているという話をよく聞く。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・当地は災害が少ないが、余りの猛暑で7月から人通りが少ない状態が続き、小売店はかなり厳しい状態である。それに比べると飲食店は悪くはない状態である。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・酷暑と台風で日中の来店客数が激減している。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・天候不良が大きく影響し、来店数の動きが非常に悪く、販売量も減っている。
	一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・猛暑はまだまだ続き来客数は伸びていない。例年であれば法事の返礼品の注文もあり売上も好調であるはずだが、天候の影響で注文も少なく、売上が減少している。
	百貨店（総務担当）	販売量の動き	・客数は前年並みを維持しているものの、客単価の減少で売上は前年割れであった。猛暑の影響によりピヤガーデン、水着等の季節商材の売行きも良くない状況である。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・8月に入り消費が急激に後退している。お盆の動向も例年より鈍い。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・ドラッグストア等競合店により来客数が減少しており、夏の猛暑で一層日中の来店客数が減少している。また、平成30年7月豪雨の影響による飲料水の欠品の発生、猛暑による野菜の高騰等、消費者にとって購入しづらい環境となっている。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年と比較して天候不順のため客足に大きな差が出ている。雨の日は大きく客数が減少し、売上に大きな影響が出ている。客も天候により外出しない生活環境になっており、厳しい状況が続いている。
	コンビニ（経営者）	販売量の動き	・前年末から売上の減少が続いている。水害等による客の購買意欲の減少もあるが、このことは天候以外にも要因がある。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・今年は特に暑く、客の出足が鈍い。季節要因が大きく響いている。
	衣料品専門店（店員）	競争相手の様子	・通常ならセール商品よりも定価商品を販売する時期だが、猛暑のためか定価商品の売上が伸びない。他店でも同様の様子で、完全にセール商品を引いた店舗はかなり苦戦している。
	衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・猛暑や台風、豪雨で客が外出を控えるなど、天候に左右された。今月の売上高は3か月前比、前年比共に厳しい数字となっている。
	衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・商店街の地盤沈下に加え、夏の酷暑や前年の県庁移転の悪影響で、来客数の減少が著しい。
	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	来客数の動き	・天候不良が6～8月の来場数に大きく影響している。ガソリンの値上がりも影響がある。
	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・確実に前年より集客数が減っている。
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊施設数増加に伴う販売数が減少している。平成30年7月豪雨の影響で、旅行計画変更や取消し等も多い。当月の伸びも前年に比べて劣っている。
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・韓国方面は回復基調にあるが、東南アジア方面の不振が続いている。国内では猛暑の影響で東京、京阪神共にこの夏は伸び悩んでいる。
	旅行代理店（企画）	お客様の様子	・この先の申込みが伸び悩んでいる。
	タクシー運転手	それ以外	・酷暑が消費行動にかなり影響を与えた。
	タクシー運転手	お客様の様子	・月初めのタクシー利用者が少なく、ここ数年の日中利用者は最低であった。夜は週末だけがまずまずであったが、1か月間の売上は悪い。
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・今は来客数は見込めないが、秋からの募集に向けて検討していく。
x	商店街（代表者）	来客数の動き	・8月の猛暑により、客の出足が鈍っており、特に高齢層の客の来店頻度が低い。
x	商店街（代表者）	お客様の様子	・今月も猛暑が続き、暑さのために客は商店街に来る回数が減っている。便利なスーパーマーケットやコンビニエンスストアで買物を済ませているのが現状である。

	x	商店街（代表者）	来客数の動き	・商店街の来店客数は、猛暑や台風の影響で極端に減少したため、売上にも影響が出て厳しい状況になっている。
	x	商店街（代表者）	来客数の動き	・気候による来客数の減少が顕著にみられる。時間帯来客数は、午前11時までと夕方6時以降に集中している。
	x	一般小売店〔青果〕（店長）	それ以外	・夏野菜の需要が下がるのは毎年の傾向であるが、予想以上の気温の上昇、また台風到来が例年より早くその数も多かったため、野菜産地が影響を受けた。それにより野菜価格の高騰、販売量の低下につながり、かなり厳しい夏を迎えている。
	x	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	お客様の様子	・仲卸は、鮮魚店や居酒屋、すし屋等、一般消費者を客にしているが、客との会話では販売している魚が少なく、鮮魚に対して購入意欲がない。
	x	一般小売店〔生花〕（経営者）	お客様の様子	・3か月前と比較するとかなりの猛暑で、生花の売上も減少した。お盆のお供えや開店のお祝い等の需要があり状況はまずまずである。
	x	百貨店（営業担当）	それ以外	・今月は天候要因がかなり影響して厳しい月であった。大雨、台風、酷暑により大きく客足が減少した。消費そのものに対する消費者の考え方が大きく変化している状況である。
	x	その他専門店〔書籍〕（副店長）	販売量の動き	・組合が発行している金券の使用期限が8月31日から来年1月までに延長されたため、駆け込み需要がなくなり売上に大きく響いている。
	x	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・8月は企業がお盆休みに入るのでもともと営業日数が少ないが、来客数は例年より減少した。法事の客が入るようホームページで誘客したが反応が薄い。
企業 動向 関連  (九州)		農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・出荷量は例年よりも減っているが、単価は過去5年間の平均と比べても2割ほど高く推移している。台風の影響で出荷量が落ちていることも原因である。
		金属製品製造業（事業統括）	受注価格や販売価格の動き	・競合他社も受注量が増加しており、建築設備機器業界全般で生産が間に合わない状況である。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・お盆の影響で受注及び引き合いに一時的な停滞がみられたが、徐々に回復してきている。例年の傾向であるが、今年はその影響は少ない。
		電気機械器具製造業（取締役）	受注量や販売量の動き	・業種によっては引き続き受注状況が良好である。他部署でも受注を対応中である。
		建設業（従業員）	受注量や販売量の動き	・平成30年7月豪雨等を踏まえた災害対策工事の発注がかなり出てきた。入札の落札はできていないが、かなり発注数が多くなっている。解体工事を順調に受注している。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・官公庁の発注工事は多くなり受注もできているが、相変わらず受注業者の偏りは続いている。現在、作業員が不足気味であり、今年中に外国人雇用も検討されている。公共工事の平準化が実施されなければ心配である。
		金融業（営業）	取引先の様子	・製造業は元々高い水準での受注を維持してきたが、ここきて、工場の増設等の設備投資も見受けられる。まとまった工場用地があればすぐに買手が付く状況である。また、人手不足から受注をためらってきた企業が外国人労働者を受け入れる等の例も数件みられる。
		経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・客からの問合せや発注が増えてきている。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・8月の販売状況は、お盆前需要で大きく伸びた。特にスーパーマーケット関連は帰省客の需要と重なって売上が好調であった。お盆明けは台風や大雨の影響もあり若干落ち込んでいる。各メーカーは、前半は供給過剰であったが、後半は異常な暑さで生産量が伸びず供給量が減少し、メーカーからの引き合いが強くなっている。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・商材に季節性があり、夏場の売行きは余り良くない。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月の売上指数は、平均値で推移している。売上は前年とほぼ同額である。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ユーザーの動きが非常に鈍い。その理由として、輸出入への依存度が高いなか、外的要因による不安定要素が多いためという説明をメーカーから受けた。しばらくこの状態が続く。	

	輸送業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・平成30年7月豪雨の影響がまだ残るものの、全体的に受注量は変わらない。お盆休み中も通常より多く出荷件数があったが、月総量としては例年どおりである。
	金融業（従業員）	取引先の様子	・百貨店では高額商品の売上が増加しているほか、酷暑の影響でエアコンディショナー等の家電販売が好調に推移している。一方、住宅関連は高水準ながら、若干頭打ち傾向にある。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・猛暑が続き、一般消費者に関わる水や冷たい食べ物等の小売業は売上を伸ばしているが、金融関係や屋外作業関係の業種は、猛暑で生産効率が落ち、仕事が進みにくい状況のため変わらない。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・一般的に景気好転に向けた明るい兆しは見受けられない。天候不順の影響で客足が鈍化し、観光関連では営業日数の縮小を行った企業もある。
	金融業（調査担当）	それ以外	・融資残高の伸長率はプラスで推移しており、大手企業はやや頭打ち、地方中小企業は直近月で上昇している。また、融資利回りは競争激化に伴い、引き続き低位で推移している。結果、地域取引先の資金需要は引き続き一定の水準を堅持しており、3か月前と比べて大きな変化はない。
	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・連絡会議における他社の報告を聞いていても、特に活発な動きはない。
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・客数、客単価は以前と変わらない。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	受注量や販売量の動き	・売上、損益共に好調な企業が多い。当社では、一括償却や保険等による税の繰延べニーズの相談が多い。また、大阪北部地震による塀の倒壊や、公立小中学校の教室のエアコンディショナー未整備等、一括して設備投資する際の資金運用相談も多く、省エネ化による設備投資維持費削減提案の依頼もある。
	農林水産業（営業）	受注量や販売量の動き	・食品関連には生産・販売共に猛暑がかなり影響している。
	繊維工業（営業担当）	それ以外	・求職者はあるが、募集しても応募者がいない。65歳以上の従業員が徐々に退職しており、最低賃金も上がるため、人数や賃金等募集方法を思案している。
	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・主要取引先からの受注状況が若干低調になってきている。
	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	受注価格や販売価格の動き	・最近の大手の傾向として、有価物を高値で売却する企業が多々みられる。多少は赤字覚悟で取引するが、最近はその額が徐々に膨らんでいる。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・平成30年7月豪雨の影響で配送手段がないため、本州方面から入庫受入れが減少しており、倉庫が閑散とした状況である。また、本州方面への配送に関しても同様に厳しい状況が続いており、倉庫から商品が出庫されず取扱いの低調さが続いている。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・全ての業種において、人手不足による賃金上昇や、原油高の高騰による経費負担増加等の影響もあり、非常に利益を生み出しにくい状況になっている。この状況のなか、経営者の景気感は総じて悪い印象を受ける。借入申込件数も少なく、前向きな状況は見受けられない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・非常に暑い日が続いた8月は、人の動向が余りなかったと聞くことが多い。日中は人がまばらで厳しい状況であったため、この猛暑の影響は大きい。
	× 窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在受注関係は最悪である。猛暑や豪雨が重なったことにより消費停滞になっている。受注は今後の見通しが立たない状況である。
	× その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村がコンサルタントに発注する調査や計画策定支援や設計等の委託業務について、今月は指名競争入札が多く行われたが、発注量が少ないことから落札率は60～65%、設計業務では40%台であった。予定価格が通常の価格より低くても落札率は変わらず、業界として景気が悪い状況にある。
雇用 関連 (九州)	-	-	-
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は前年比で常に増加しており、この傾向は今後も続く。ただし、求人職種に大きな偏りがあり、好況感を実感するまでには至っていない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・前年比で引き続き110%の求人数となっている。

	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・労働者派遣法の雇用安定措置の関係で雇用形態が切り替わる動きはあるが、他の派遣自体の求人数は増加していない。
	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・製造業でも、工場を新設し数百名の雇用を検討している企業もあれば、海外との価格競争により事業撤退を余儀なくされ、工場を閉鎖する企業もある。また、お中元の求人もあるが、商品の注文数が前年と比較すると減少している状況である。
	新聞社 [ 求人広告 ] (担当者)	それ以外	・中心市街地の人出も相変わらず多く、飲食店等も混み合っている。郊外のショッピングセンターも大規模なりニューアルオープン等があり、消費動向も活発な状態が続いている。
	新聞社 [ 求人広告 ] (担当者)	それ以外	・7月からの連日の猛暑で、飲料水関連等の消費に伸びがあった。一方この暑さにより、旅行やレジャー等外出を控えていることも多い。秋以降も台風等の天候不順で景気の大きな伸びは期待できない。
	職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・新規求職申込者は、前年度を下回る月が続いていたが、平成30年4月以降、前年度並みか若干上回るようになった。これは55歳以上の年齢層が、在職中に転職先を探す求職者が増加したため、若年求職者の減少傾向は変わっていない。
	職業安定所 (職員)	求職者数の動き	・新規求人数は4～5月にかけて減少したものの、6月には戻り4月とほぼ変わらない数字になっている。一方、求職者数は4月以降、2か月連続で減少し、6月の減少率は4月に比べると29.4%となった。この減少率を前年同期と比較したところ、5.6%高くなっており、企業の手不足感はより高まっている。企業の手不足には、利用者数の制限や採用が成立しないということも挙げられ、これらのことから景気が上向くとは考えにくい。
	職業安定所 (職業紹介)	求人数の動き	・求人数の増加がみられ、管内の有効求人倍率も高い水準で推移している。
	学校 [ 大学 ] (就職支援業務)	求人数の動き	・2019年卒業生採用において、前月と比較すると1か月に届く求人票の受理件数は若干多くなっている。特に中小企業を中心として、企業の採用意欲は依然高いが、内定辞退等の影響を受ける企業もあるため、採用活動は活発である。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・8月は例年求人数が比較的少ない時期でもあるが、一部の企業で人手不足感があるものの事務系の求人は落ち着いている。
	x	-	-